

## 山根耕平先生、森川直先生　ご退任記念号に寄せて

児童教育学科長　戸　江　茂　博

このたび、児童教育学研究第33号を、山根耕平先生並びに森川直先生のご退任記念号として上梓できますことを大変喜ばしくかつ誇らしく存じます。

本年3月をもちまして、児童教育学科の巨頭、山根耕平先生と森川直先生が退任されることになりました。両先生のこれまでの辿ってこられた道を振り返り、そのお姿に敬意を表し、感謝することをもって巻頭言に替えさせていただきたいと思います。

山根先生は、1985年に専任講師として親和女子大学（当時）に赴任されました。その後、30年の長きにわたりまして教育研究、大学運営に重責を担われ、本学の発展にご尽力されました。神戸親和女子大学が現在あるのは山根先生のご努力のたまものと言っても過言ではありません。1996年に教授になられてから、学生部長、国際交流委員会委員長、児童教育学科長、教務部長を歴任され、それぞれの部局でたゆまぬ改革を成し遂げられました。1999年に学校法人親和学園の理事となり、2003年に神戸親和女子大学学長となられてからは、大学の組織体制全体の充実と発展に邁進され、教育的雰囲気の充溢する今の親和へと導いてこられました。

児童教育学科長時代には、とりわけ学びのコース制の導入と保育士養成課程の設置が特筆されます。学生の興味・関心や将来の進路等を踏まえ、ゼミを中心として学びの流れを創り出そうとし、初等教育コース、発達教育コース、子ども学コース、生涯体育コースの4コースを設けました。現在の初等教育学コース、幼児教育学コース、保育学コースの前身です。生涯体育コースを発展させたものが、現在のジュニアスポーツ教育学科です。また、保育士養成は大学の使命であることを確信して、2000年に児童教育学科に保育士養成課程を設置されました。現在に至り、保育士養成は、児童教育学科の一つの核となっています。

山根先生の教育理念が実を結んだのが、オンキャンパスとオフキャンパスの融合的教育です。山根先生はこれを現在の大学の「教育戦略」と呼んでいます。教育戦略とは、「学生の成長を促すための、学内でのいわゆる座学を意味する『オンキャンパス教育』と学外（海外も含めて）でのアクティブ・ラーニングを意味する『オフキャンパス教育』の融合という戦略」です。山根先生は、教育戦略をさらに進化させ、海外のアクティブ・ラーニングをさらに二段階にしようという構想を持っておられます。本学の教育的雰囲気をさらに豊かに醸し出していくための、

きわめて重要な提言と思われます。教員としては退任されても、理事長としては長くご活躍されますので、これからも先生のご指導の下、この教育戦略の更なる進化に向けて学科として努力をしてみたいと思います。

森川直先生は、岡山大学教育学部で長きにわたって教鞭をとられ、教育学部長、岡山大学副学長を歴任されたのち、2010年に本学に招聘され、児童教育学科教授ならびに大学院文学研究科の教授として活躍してこられました。本学には4年間の在職でしたが、児童教育学科の重鎮として存在感を示してくださり、ことあるごとに先生のお言葉は正鵠を得ており、教育や研究についてどう考えたらよいか、どう見ればよいかについて教えてくださいました。また、大学院での教育研究の発展と充実にご尽力され、神戸親和女子大学の大学院での、大学院ならではの深められた教育研究のあり方のモデルを示してくださいました。

森川先生はわが国でも有数のペスタロッチー（18世紀から19世紀にかけて活躍したスイスの教育実践家・教育思想家）研究の大御所です。森川先生は、ペスタロッチーの教育実践の背後にある深い教育思想を解明することをその研究の中心とされ、数々の研究論文と著書を発表されてきました。近年は、教育者としての本来の在り方を求めてドイツ汎愛派の教師教育の研究にも携わっておられます。ペスタロッチー研究を基盤として、森川先生は教育の本質を探究されてきました。本質追究という研究の姿勢をわれわれも学ばせていただきたいと思います。

山根先生は本学のこれから歩んでいく道を示してくださいました。森川先生は、研究のあるべき姿を示してくださいました。児童教育学科における、お二人の先生のこれまでの情熱的な教育研究に心より感謝を申し上げますとともに、今後の益々のご健勝をお祈り申し上げます。